



支援センターだより



2011.9 発行 vol.83

8月もまもなく終わろうとしています。今年は蒸し暑い日が続いていましたがいかがお過ごしでしょうか。外では蝉が昼夜必死に鳴いていて夏の終わりが近づいている事を感じさせてくれます。広場ではいつもは0、1、2歳の小さい子が多いのですが、7月8月は幼児が大勢遊びに来ていて、久しぶりの再会でとても賑わっていました。



先週土曜日は「げんきの会」の集まりもあり、その後、広場があふれんばかりの人で埋まっていました。小さい赤ちゃん連れの方にはゆっくり出来なかったのではと申し訳なく思っています。

先日、長崎にある童話館から『絵本のある子育て』という冊子が送られてきました。その童話館は長崎の大浦天主堂に行く坂の途中にある素敵な建物です。正式名は「祈りの丘絵本美術館」といいます。私は両親の墓参りに帰った時は必ず訪ねて、そこでゆっくり絵本を見たり、たくさんの絵本に囲まれ、過ごす事で豊かな気分になり、また元気ももらっています。送られてきた冊子には子どもの育ちに絵本がどんなに魅力があるか…などが書いてあり、いろいろな絵本の紹介もしてあります。

その中に「今を生きる子ども達の深いところの心に寄り添い、よりよく生きようとする子どもの心を励ましていけるような、そんな絵本を手渡していきたいと願っています」、そしてまた「子どもの心の成長に応じた、すぐれた絵本を手にしたとしても、それをそのまま、子どもへ渡すのでは、せっかくの宝の箱は開きません。宝の箱を開くには特別の言葉が必要です。それは絵本を読んであげる大人の言葉です。つまり、絵本とは子どもが文字が読めるようになって、自分で読むのではなく、**子どもに読んであげる事で命のかよう本**なのです」と記されていました。子ども達にたくさんの絵本を読んであげたいですね。そして絵本を通して子どもとの時間に変化が出来て、子どもといるのが楽しくなると良いですね。この冊子は棚の上においてあります。ご自由にお持ちください。



スタッフの溝口が産休に入り、また新しいスタッフが2名加わりました。

9月からも安心してゆっくり過ごしやすい広場の充実と、相談事業にあたっていきいたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

武井まさ子

